

人文科学研究所研究叢書

17.『ヴィジョンと現実 十九世紀英国の詩と批評』

1997年3月31日発行

中央大学人文科学研究所 編 中央大学出版部発行

本体価格6,800円（税別）

ISBN 4-8057-5312-9

はしがき	
第一部 ロマン主義の時代	
I ロバート・バーンズとイギリス・ロマン派	岡地 嶺
II 『隠者』の構想	川口 紘明
III 「近代」イギリス詩人と文化論 —S. T. コウルリッジの場合	松本 啓
IV コウルリッジの批評とその後 哲 —哲学的詩人と「感性の分離」	原 孝一郎
V ハズリットの批評と想像力の共感作用	上坪 正徳
VI 永遠なる希求	坂川 雅子
第二部 ヴィクトリア時代	
VII 女性は子供から生まれる？ —エリザベス・バレット・ブラウニングの人生と文学への挑戦	井上 美沙子
VIII 初期ヴィクトリア朝詩人の世界観と詩法管見 —ブラウニング、テニスン、アン・ブロンテ、アーノルド	森松 健介
IX テニスンの 'process of speech' —『国王牧歌』の言語宇宙	里麻 静夫
X マシュー・アーノルドの転換期	中川 敏
XI マシュー・アーノルドの悲劇感覚 —その目覚めの頃の作品について	兵藤 雅子
XII 幻想の都市彷徨 —ジェイムズ・トムソン (B・V) 『恐ろしき夜の都市』	笠原 順路
XIII 虚と実の間 —スウィンバーンの詩	土屋 繁子
索引	